「記憶」について
20231209

記憶は自分のものか

何故忘れるか

忘れてもよみがえることがある

人にとって記憶とは何か

意識に昇るものと潜在する意識

20~21歳で最高潮に達する

編集しながら、物語をつくりながら生きること

トラウマの経験

閉所恐怖、猫が嫌い、鳥が嫌い

記憶は変えることはできるか

金縛り（祖母）→夢→潜在意識

ぶつぶつが嫌い

土蜘蛛：大和政権に服従しなかったという辺境の民の蔑称→能にも謡われている

土蜘蛛の例→恐怖を妖怪のようにして昇華できるのではないか

高速道路の運転ができない（体調の急変により死ぬかという経験）

みんながそう言うからという刷り込み

お祭り→邪気払い、恐怖の物語がある

鬼とか悪霊を鎮める→心の不安を儀式に代えて昇華する

記憶とは、その人そのもの→自分を受け入れるということ

人間は忘れる動物→忘れることは重要→潜在化

感じるよろこび→かつての知識、経験、思い出から語り継がれた物語

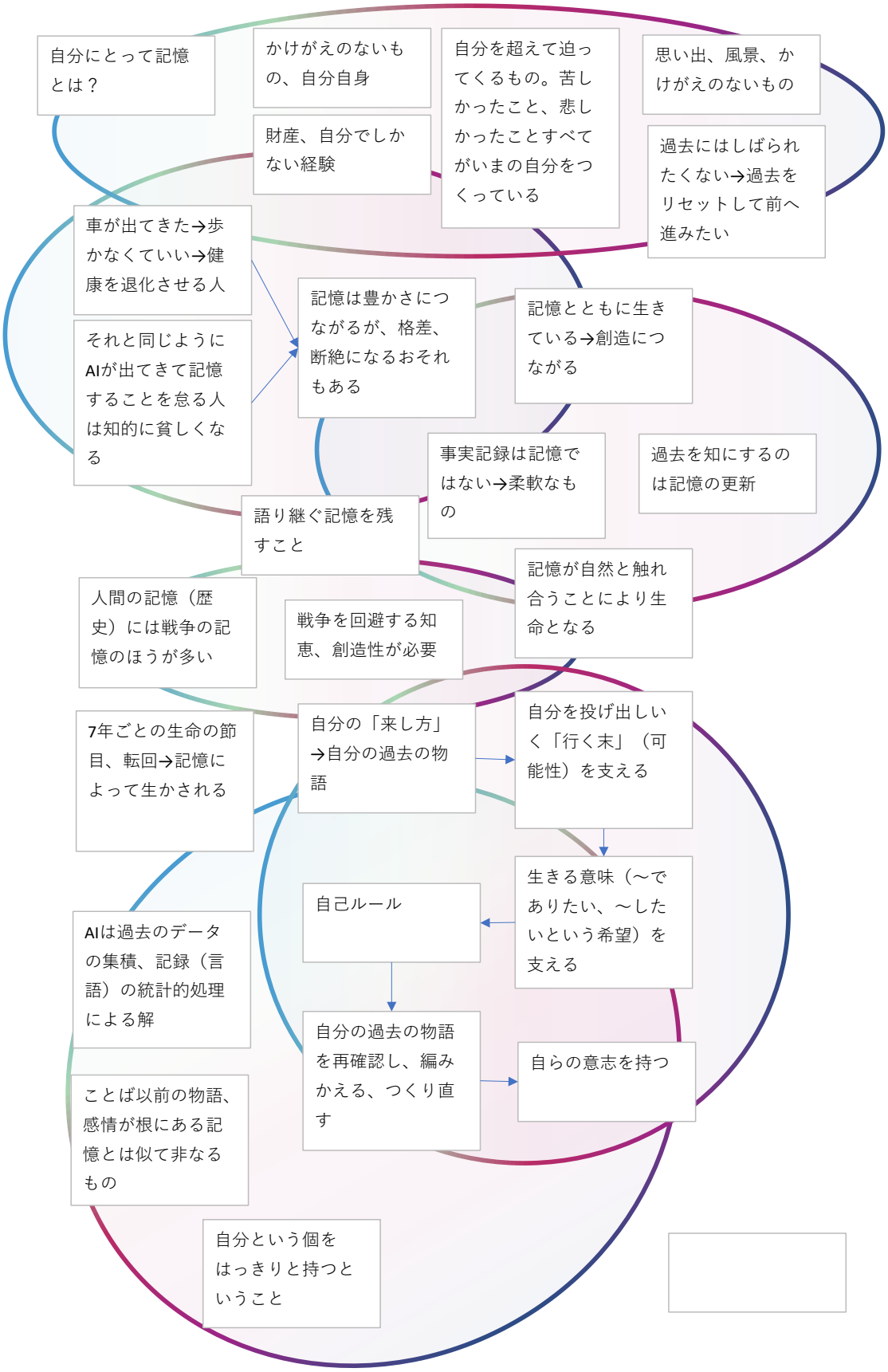
過去の物語→歴史をもっと学ぶべき、教えるべき

AI→人は記憶する必要なし？

AI→記録の集積。記憶ではない

今は小学校からプログラミング言語が必修であり、その余裕がない

記憶の価値が違ってきている


自分にとって記憶とは？
かけがえのないもの、自分自身
自分を超えて迫ってくるもの。苦しかったこと、悲しかったことすべてがいまの自分をつくっている
思い出、風景、かけがえのないもの
財産、自分でしかない経験
過去にはしばられたくない→過去をリセットして前へ進みたい
車が出てきた→歩かなくていい→健康を退化させる人
それと同じようにAIが出てきて記憶することを怠る人は知的に貧しくなる
記憶は豊かさにつながるが、格差、断絶になるおそれもある
記憶とともに生きている→創造につながる
事実記録は記憶ではない→柔軟なもの
過去を知にするのは記憶の更新
語り継ぐ記憶を残すこと
記憶が自然と触れ合うことにより生命となる
人間の記憶（歴史）には戦争の記憶のほうが多い
戦争を回避する知恵、創造性が必要
7年ごとの生命の節目、転回→記憶によって生かされる
自分の「来し方」→自分の過去の物語
自分を投げ出しいく「行く末」（可能性）を支える
生きる意味（～でありたい、～したいという希望）を支える
自己ルール
AIは過去のデータの集積、記録（言語）の統計的処理による解
自分の過去の物語を再確認し、編みかえる、つくり直す
自らの意志を持つ
ことば以前の物語、感情が根にある記憶とは似て非なるもの
自分という個をはっきりと持つということ